

ウェディングドレス

花嫁の清らかさの象徴であり、憧れでもあるウェディングドレス。大切な晴れ舞台を彩るドレスだからこそ、その着こなしのルールはもちろん、流行や傾向も知っておく必要があります。

◆白いドレスの始まりは女王様

ウェディングドレスと言えば、白いドレスと手織りレースのベールを思い浮かべる人も多いでしょう。このスタイルが定着したのは、1840年のヴィクトリア女王の結婚式以降のこと。白いドレスは、純粋かつ汚れなき魂を表わしていると言われます。そして、現在もヨーロッパではウェディングドレスは母親から娘へ受け継がれる習慣が残っています。

◆シンプルなタイプが今の旬

最近の主流はシンプルなもの。またスレンダータイプからAラインタイプへと好みが変わってきているようです。またバックスタイルにポイントを持たせるなど、演出に工夫を凝らす人も増えているようです。

◆ドレスの基本は4タイプ

スカートが広がった「プリンセス」、ボディラインに添ったデザインの「スレンダー」、裾がなだらかに広がった「Aライン」、短い丈の「ショート・レングス」が基本的なデザイン。

アメリカンスリーブ

首の根元あたりから肩まで広く開いた袖のラインのもの

デコルテ

胸元が大きく空いたネックラインのもの

アンピールライン

胸のすぐ下に切り替えがあるドレス

パゴダスリーブ

袖口が空いているデザインのもの

バスル

ヒップや腰のあたりでスカートを膨らませたデザイン

◆ドレスの歴史を知っておきましょう

1～5世紀

花嫁衣裳はサフランの花で染めた黄色が普通。ベールを飾る習慣も見受けられました。

6～16世紀

白の花嫁衣裳が登場。白いドレスは「1度しか使われない衣裳を持つだけの財力がある」ことを示していました。この頃はベールは用いられず、キャップやボンネットなどの帽子にレースの飾りを付けて使用していました。

19世紀～20世紀初め

ヴィクトリア女王時代にウェディング・コスチュームのスタイルが確立。純白の衣裳が「花嫁が処女である」ことを意味するという考え方も、この時代に生まれました。ベールもこの時代に復活。オレンジの花飾りはフランスで使われ、その後、アメリカ～イギリスへと伝わったと言われます。

◆不思議な力を持つ！？ベール

教会婚で花婿が花嫁のベールを上げてキスをするのは、相手への忠誠を意味するもの。そのため挙式以外では、ベールはつけないのが基本です。それに加え、昔から「挙式前にベールを他人に貸してはいけない」というタブーもあります。というのも、ベールを被った人に花婿の心が傾いてしまうという言い伝えがあるからなのです。